

# ともに・・・

R7. 7. 1

自ら考え挑戦し ともに高め合う 北杵築っ子の育成

## 自分たちで実際に米を作ってみよう

～山本さんにご協力いただきました～

6月26日(木)、1・2時間目に5年生が田植えを行いました。

5年生の半数の家庭では、米を作っているそうで、これまで手植えの経験やその他の手伝いをしたことがある子もいるようです。しかしながら、目の前の米が、どのように作られてきているのかを知らないことが多く、“自分たちで実際に米を作ってみよう”ということになったのでそうです。子どもたちが課題意識を持って取り組む、総合的な学習の時間を充てています。

この学習のために、地域の山本英雄さんにご協力いただき、自宅の畑を田植え用に起こし、入水後トラクタで代掻きまでしていただきました。そして、この日も山本さんが苗の準備とともに、一緒に田植えをしてくださったのです。

いよいよ田に入ります。泥の中に恐る恐る足を入れる5年生。「気持ちいい!」と、ぬるっとした泥の感触を味わっています。足元が不安定でなかなか前に進めない中、やっとの思いで、田植え紐の前に一列に並びます。山本さんに教えられた通り、数本の苗を手し、丁寧に泥の中に沈めます。

一列上手に植えられました。子どもたちが後ろに一步下がったところで、山本さんと担任が、持っている紐をすらしめます。そしてまた、新たな位置に整然と、子どもたちは苗を植えています。

これをしばらく繰り返した後、山本さんが、「自由に植えてごらん」と、子どもたちに投げかけ、紐も取っ払いました。すると、子どもたちは、畦の辺りに植えたり、取水口付近に植えたりと、各々が好きなように植え始めました。着ている服が泥だらけになっても気にせず、田植えを思いっきり楽しんでいるようです。

一方で、子どもたちは、楽しいながらも、腰をずっと曲げたまま、長時間手植えをしていく大変さも実感したようです。今は、田植え機で短時間に大量の苗を植えていくことがほとんどでしょうが、それでも生産者の方々の苦労は、大変なものでしょう。

米が自分たちの口に入るまでに、生産者のみなさんが、どんな工夫や苦労をされているのか、子どもたちが実際に育てていく中で、身をもって学ぶことでしょう。と同時に、米作りにおける自分の考えを深め、米との向き合い方を改めて考える機会になるにちがいありません。



## 全てスリッパを揃えるには・・・ ～4年生第2弾～

前回の通信で、4年生のスリッパ揃えの取組についてお伝えしました。

さて、先週のことでした。未だに2階のトイレスリッパが全て揃えられていないことが気になった4年生。どうしたらみんながスリッパを揃えてくれるだろうか、さらに考えたそうです。その中で、“ラミネートされたスリッパの写真が置かれているところは、その写真と重なるように揃えて置かれているが、写真がないところは、スリッパが揃っていないことが多い”ことに気づいた4年生。「全てのスリッパ置き場に、写真を貼っておいたらよいのではないか」という新たなアイデアを発案しました。早速担任の先生の力を借りながら写真を準備し、その写真を自分たちで貼りに行ったのだそうです。

先日、私が2階トイレスリッパの様子を覗きに行くと、全てのスリッパが、写真の上に揃えて置かれているではありませんか・・・。よりよい学校生活を送りたいと願い、実行する4年生の切実さが伝わってきます。



願いを持ち、実行し、また、状況を見直し、新たな課題への対応を繰り返そうとする4年生の姿は、まさに学校教育目標にある“自ら考え挑戦”する姿であり、課題解決に向けての粘り強さも光り、頼もしい限りです。

## 自主性・自発性の芽が育っています

児童会が主体となって取り組んでいる“あいさつ・グータッチ”運動について、前号で紹介しましたが、このあいさつ運動が始まった初日の月曜日。この日は、1・6年生が担当です。初めて行うこともあり、やり方を確認しながら各教室を回ったため、かなり時間がかかってしまいました。

実はこの日は、保護者の方が来てくださる読み聞かせの日でもあり、8時15分からの読み聞かせまでに、あいさつ運動を終わらせる予定でしたが、時間がずれ込み、保護者の方のせっかくの読み聞かせが、十分でなくなってしまったのです。

このことについて、早速職員で解決をしようとしたものの、このあいさつ運動は、そもそも児童会が主体の活動であり、休み時間に急遽、運営委員会の子どもたちを集め、月曜日のあいさつ運動をどうするか、子どもたち自身で話し合ってもらいました。

月曜は、読み聞かせの時間が決まっていることから、子どもたちは、時間がずれ込むことを心配して、水曜日に変更になったようです。当初、水曜日は児童朝会があるため、あいさつ運動を入れていなかったのですが、児童朝会が月1回ということもあり、水曜日実施に変更と決定したようです。

決定したことを1年生に知らせなければならないことに気づいた運営委員会の子どもたち。自ら1年担任にお知らせに行ったと聞きました。運営委員会の解決策のおかげで、翌週からあいさつ運動も読み聞かせも、順調に行えています。

自身が考えた企画の困りに直面した子どもたちです。すぐに教師が解決策を示すことは避け、子どもたち自身が自力で解決していく場合は、とても重要だと考えます。

本校の子どもたちの自主性・自発性の芽が、大きく育った瞬間です。